

2025 年度 たっけんカップ振り返り

GP コーチ

【総括】

今回の大会では、GP がボールを受けた際に慌ててクリアする場面が多く見られた。リスク回避という点では悪くないが、落ち着いて味方とパスをつなぐ意識を持つことで、より安定したビルドアップが可能になると考えられる。

また、ゴールキックをディフェンスの選手に蹴らせている場面があったが、これにより最終ラインのバランスが崩れ、跳ね返された際の守備リスクが高まっていた。GP 自身がゴールキックを行うことで、ディフェンスラインの安定を保ち、リスクを軽減できると考えられる。

足元のプレーには課題が残るものの、裏のスペースをしっかりとカバーし、自ら前に出て対応する積極的な姿勢が見られ、プレーに対する意識の向上と成長が感じられた。

一方で、声かけが不足しており、連携ミスから失点につながる場面が複数見られた。ハイボールへの対応や落下地点の予測力を高める練習を取り入れ、試合中のコミュニケーション強化を図っていきたい。

一対一の反応や飛び出すタイミングは良好であり、成長が感じられたが、正面上へのシュート対応に課題が残った。今後はこの部分を重点的に改善していく必要がある。また、体格差のある相手に対してはフィジカル面で押し切られる場面も見られたため、ディフェンスと GP の間で「マークに入る選手」「カバーに入る選手」といった役割を明確にし、事前の連携を強化していくことが重要である。

まとめ（今後のトレーニングに向けて）

- ① 正面や上方向へのシュート対応力を高めるためには、まずゴールを大きく感じさせる意識づけが重要である。その感覚を試合でも持つことで、小学生用ゴールを小さく感じられ、正面での失点減少につながると考えられる。そのために、中学生用の大きなゴールを使った練習を取り入れることが有効である。
- ② 一対一の対応では判断の遅れが課題であり、今後はよりの確な判断力を養うためのトレーニングを計画している。
- ③ また、シュートを止めた後の対応にも課題が見られ、セーブ後にボールを見失う場面が多かった。プレーを止めた時点で終わらず、次の動作までを意識した一連のプレーを全員で徹底していく必要がある。
- ④ さらに、ハイボール対応では落下地点の予測やフィールド内での連携を意識し、「どうしてほしいのか」「どうしたいのか」といった声かけを試合でも実践できるようなトレーニングを行っていく。